



暖かい心 広い視野 行動力 『県民ひろば号外』

もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動報告

発行責任者
大分県議会・県民クラブ
守永 信幸
〒870-0022
大分市大手町3-2-9
TEL 097-534-2021
FAX 097-536-0595

もりちゃんの活動記録



▲県立聾学校にて

第三次特別支援教育推進計画の推進に向けて

2018年度からの第三次大分県特別支援教育推進計画に盛り込まれている、県立聾学校の盲学校敷地内への移転、聾学校跡地での特別支援学校と高等特別支援学校設置、別府市内の支援学校の体制整備等について、県民クラブの調査に参加しました。

施設の拡充と併せ、特別支援を必要とする子ども達への教育内容の充実も求められるところです。



◀県立盲学校にて

JR 駅無人化に抗議する集会

JR九州が発表したスマート・サポート・ステーション(SSS)導入方針について、障がいのある方々を中心に利便性の低下や駅利用の不安などを訴える声が広がっています。私も2月12日の集会に参加しましたが、公共交通を担う経営体としてあるべき姿を議論する必要があります。



▲2月12日コンパルホールで開催された集会



▲JR 牧駅に設置された券売機と案内設備

日出生台で米海兵隊実弾射撃訓練

4年連続となる日出生台演習場での米海兵隊実弾射撃訓練が2月6日から13日にかけて実施されました。

沖縄の負担を軽減するため受け入れた訓練ですが、沖縄の現実を見ると負担は軽減されていません。早急に日米地位協定の見直しを行うべきです。



▲抗議する平和運動センターの皆さん



▲陸揚げされた榴弾砲

暮らしの相談承ります。

政治は暮らしに直結しています。守永信幸が暮らしの相談を承り、専門家とともに解決をめざします。

まずは、お電話を！

TEL 097-534-2021
FAX 097-536-0595

2018年度予算の特徴と県政の課題

3月29日に閉会した第1回定例県議会で成立した2018年度予算についてお知らせするとともに、今後の課題について見解を述べます。

◇災害からの復旧と防災

2018年度当初予算は2016年の熊本地震、2017年の豊後大野市の地滑り災害や九州北部豪雨災害、台風18号災害からの復旧・復興と県土強靱化に力を入れた予算となりました。

4月11日に中津市耶馬溪で土砂崩れが発生しました。被災し亡くなられた方のご冥福を祈り、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。今年度予算では、急傾斜崩壊対策事業費については、国庫事業59ヶ所で12.5億円、県単独事業74ヶ所で6.3億円を計上しています。県内の特別警戒区域は1万カ所以上もあり、多くの急傾斜地を短期間で解消する事はできません。県は中津市・玖珠郡地域の危険地域の点検を行いました。該当地区にお住まいの方は、特に注意が必要です。わずかな変化にも注意して下さい。



▲大分港海岸の津留地区の現況

◇南海トラフ大地震への備え

政府の地震調査委員会は想定される「南海トラフ巨大地震」について、30年以内の発生確率を「70～80%」に引き上げると発表しました。津波へのハード、ソフト両面での備えが必要です。

津波・高潮対策に関連したコンビナート地区の護岸改良整備は2017年度に着工し事業期間19年、総事業費300億円と予定されています。港湾事業は国の予算が大きく関係します。予算確保に向け執行部と議会とで協力しながら積極的に取り組んでまいります。

今年度当初予算では、1981年5月以前に着工した木造戸建て住宅や木造アパートについて耐震診断を定額負担としたほか耐震アドバイザーの派遣を無償としました。また木造以外のマンションなどについても、耐震アドバイザーを無償で派遣できるようにしています。地震に対する適切なアドバイスを受けて、しっかりと善後策を講じることが必要です。

◇人口減少をくい止めるために

人手不足対策や大分県版の地方創生関連の施策の展開を講じる予算も計上されています。大きな課題としては人口減少の流れをくい止めていけるかです。人手不足により中小企業の経営展開が困難になる状況も耳にします。いかに雇用の確保と顧客・仕事の確保を図れるかが問われています。雇用の確保の原点として、第一次産業に打開点を見出すべきと常々考えています。

第一次産業においても新規就業者の開拓と

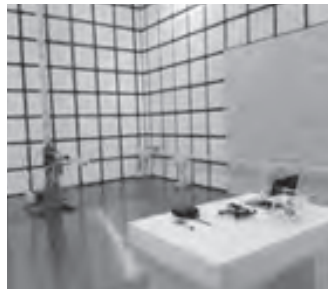


▲▶大分市高江の県産業科学技術センターにオープンしたドローンのテストフィールド



定着に力を入れています。農業分野では主要品目の新規就農者に対する学校制度も篤農家の協力体制がしっかりとしてきました。関係者で協力しながら就業者を増やし、地域経済の活性化につなげていきたいものです。

また第4次産業革命の大分県版としてドローンの技術開発のためのテストフィールドや、電波暗室、磁気シールドルームといった電子機器開発のための実験施設をオープンさせました。産学官の連携に期待しています。



▲電波暗室



▲磁気シールドルーム

◇地域公共交通のあり方

九州北部豪雨で被災した久大本線は7月14日までに復旧の見通しと発表されました。一方で日田彦山線の復旧には工事費が70億円に上るとも言われ、工事費の負担について議論が続いています。



▲3台のカメラで監視

▲JR牧駅は無人化され監視カメラが設置された

その様な中で3月17日、JR九州は春のダイヤ改定を実施。この改定により、大分県下では38本の列車が減便となりました。またSSS（スマート・サポート・ステーション）が導入され、大分市内では牧駅が先行して無人化されました。SSSについては安全確保のためにJR九州に適切な対応を求めていかなければなりません。

今定例県議会で、公共交通のあり方について広瀬知事は「平成28年の完全民営化の際に、JR九州社長は国会において、『九州の鉄道ネットワークを今後も維持、活性化に努める』旨を答弁し、また国はJR九州が踏まえるべき事業経営の指針に完全民営化後も路線の適切な維持に努める旨を規定している。災害で不通区間のある久大本線及び日田彦山線の復旧はもとより、本県の4つの鉄道路線は、JR九州が責任を持って維持するものと考えている」と答弁しています。

あらためて公共交通のあり方を考え、課題を解決しなければなりません。

◇県職員・教員の働き方改革

働き方改革、過労死が大きな社会問題となっていますが、大分県庁でも2015年12月に現職死亡した県職員(当時34歳)の公務災害が認定されました。これまでの労務管理を検証し、不十分なところを充実しなければなりません。

県では、パソコンの稼働状態を把握するソフトやタイムレコーダーを導入し、超過勤務の実態把握に努め公務員の働き方改革を打ち出すことにしています。

「公務員だから滅私奉公」ではなく、労働者としてより良い仕事環境を整えることが、県民の皆さんにとっても生活向上に繋がるはずで

『焼き場に立つ少年』の写真に思う



▲焼き場に立つ少年

昨年末にローマ法王フランシスコが、1945年の長崎原爆の被害者の姿をとらえた写真をカードにし「戦争が生み出してしまったもの」とのコメントを付けて配布するよう指示したとの報道がありました。その写真とは従軍カメラマンとして長崎を訪れていたジョー・オダネル氏が撮影した『焼き場に立つ少年』です。この少年が背負っている子どもは既に息絶えていて、少年は子どもの火葬の順番を待っているのです。火葬をしている大人が少年から子どもを受け取ると、子どもをそっと熱い灰の上に横たえさせます。肉の焼ける音がした後まばゆいほどの炎がさっと舞い上がり、夕日の様の赤い炎に照らされた少年の強く噛みしめた唇に血がにじんでいるのにジョー・オダネル氏は気がつきません。炎が静まったあと、少年がその場から立ち去るまで彼は見守り続けるのです。

ジョー・オダネル氏は、終戦直後の佐世保港に上陸し、戦後の状況を写真に記録しました。彼は米軍の戦果を写真に収めるだけでなく、敗戦後の日本で生きる人々を写真に収めてきました。戦争の悲惨さをその一身に受け止めるようにしてシャッターを切り続けたのです。そんな彼の写真だからこそ、戦争を繰り返してはならないというメッセージが込められているのだと感じます。

毎年高校生平和大使がジュネーブ軍縮会議に派遣され、核廃絶に向けての訴えを行ってきました。世界中の人々が平和に暮らせる世界を築くことは、悲しい歴史を繰り返さないことがまず大事です。誰もが大切にすべきものを守るために努力を重ねなければなりません。日本国憲法は、先の大戦の反省に立ち武力で国家間の紛争の解決を図るべきでは無いことを謳っています。そしてその思いを大切にしてきたからこそ、日本の平和が維持されてきたのだと言えます。憲法9条について議論が始まろうとしていますが、国民不在の議論にさせてはなりません。

『神様のファインダー(元米従軍カメラマンの遺産)』(発行:いのちのことば社フォレストブック)という本に彼の写した写真と共に彼の生き様が紹介されています。是非ともご覧頂くことをお勧めします。



▲廃墟と化した街に残った学校で勉強をする子ども達

お知らせ

- ◇常任委員会では「土木建築委員会」に所属するようになりました。特別委員会は引き続き「障がいのある人もない人も心豊かに暮らせる県づくり特別委員会」で委員長を務めています。
- ◇行政や暮らしに関わる相談をお請けしています。お気軽にご連絡下さい。
- ◇地域での意見交換会にも参加致しますので、お声がけ下さい。
- ◇守永信幸後援会の会員を随時募集しています。年会費3千円です。守永の活動をご支援下さる方、ご連絡下さい。(連絡先: 097-534-2021 担当: 寺山 9:00~16:00)

編集後記

▶もりちゃん通信の紙面構成を変更してみました。誰もが気軽に読める工夫をしたいとの思いですが、伝える内容の改善はまだまだです。▶皆さんの暮らしに密着した課題に触れる編集と取り組みに気を配りながら、これからも改善して参ります。お気づきの点があれば気軽にお声がけ下さい。